

大学で身につけるべき知的スキルとは？

「インプット」⇒「熟考」⇒「アウトプット」

調査本部 副部長 宇野 健司



「学習サイクルを回す」。これが大学で身につけるべき知的スキルでしょう。

- ①授業前：大量の文献を読み込み、知識を「インプット」する
- ②授業中：多様な刺激を受けて、「熟考」する
- ③授業後：体系化して「アウトプット」する（レポート・プレゼン・テストなど）

社会に出てからも、仕事などで直面する課題に対して、今度は自分で「インプット」⇒「熟考」⇒「アウトプット」という学習サイクルを回せるようにするべきでしょう。つまり、「自分で情報を集めて読み込み、会議などで知見を集め、その考えを資料にまとめること」。

それが自力のできるのなら、一生、自ら学び成長する能力が、身についた証拠でしょう。

①授業前：大量の文献を読み込み、知識を「インプット」する

海外の大学では、「リーディング・アサインメント」という授業前に読んでおくべき教科書や資料の指定があり、1回あたり通常数十ページに及びます。大量の文献を読み込み、基礎知識のインプットを済ませてから授業に臨むのが、身につけるべき学習姿勢の第一歩だと思います。

そもそも大学では、「授業の2倍の時間を、予習・復習に充てること」が、文部科学省の「大学設置基準」において規定されています。つまり、1.5時間の授業に対し、3時間の予習・復習を課すルールなのです。そして、それを前提に単位が付与され、大学卒業が認定されます。

しかし、実態はどうでしょうか。例えばアメリカの大学では、1週間に11時間以上勉強する学生が60%程度なのに対して、日本では15%程度であり、約2/3の学生は、0～5時間なのです（「全国大学生調査」2007年、東京大学 大学経営・政策研究センター、NSSE “The National Survey of Student Engagement”）。

つまり、日本の一般的な大学生が、1週間に10コマ前後の授業を取っていると仮定すれば、「大学設置基準」通りの予習・復習を行っていないこととなります。これは、個々の学生や教員の意識の問題というより、大学教育全体の仕組みとして、見直すべき最優先課題でしょう。

②授業中：多様な刺激を受けて、「熟考」する

授業前に、大量の文献を読み込んだ上で、授業中には、教員や他の学生からのリアルな刺激を受けて、「熟考」する場を得ます。ただ単に、文献からの知識を受け入れるのではなく、教員の指導を受けながら、「本当にそうだろうか?」「自分ならどう説明するか?」「何か新たな学びや発見はないだろうか?」と、自分の頭で考えてみるのが、学生にとって重要だと思います。

人間の頭は、良い知的刺激を受けると、活性化されて、学習意欲も向上するのでしょうか。良い授業とは、単に知識の提供を目的とするものではなく、知的刺激を与えてモチベーションを高めるべきものだと考えます。これが教員側にとって、重要なポイントとなるのでしょうか。学生は直感的に、良い教員かどうか、しっかりと感じているはずです。

③授業後：体系化して「アウトプット」する

授業前・授業中で得た知見は、体系化した上で「アウトプット」して初めて、自分のものとして、定着するのでしょうか。レポート・プレゼン・テストなどの意義は、そういうことだと思います。つまり、漠然とした学びを整理して、自分の知見として言語化するということです。

上記のような「インプット」⇒「熟考」⇒「アウトプット」という学習サイクルを回す体験を重ねることが、大学で身につけるべき知的スキルだと思います。このような知的トレーニングを積めるのであれば、極論すれば、専門分野は何でもいいのです。すぐには社会で役に立たなくても、興味のあるテーマを専攻するべきでしょう。

社会に出てからも、仕事などで直面する課題に対して、今度は自分で「インプット」⇒「熟考」⇒「アウトプット」というサイクルを回せるようにするべきでしょう。つまり、「自分で情報を集めて読み込み、会議などで知見を集め、その考えを資料にまとめること」。それが自力でできるようなら、一生を通じて、自ら学び成長し続ける能力が、身についた証拠でしょう。

何かを「やり切った!」という自己肯定感

もう一つ付け加えるならば、大学時代に、何かを「やり切った!」「やり抜けた!」「できるようになった!」という達成感・自立感・自己肯定感を持つことが、とても大事だと思います。それは学問だけでなく、サークル・アルバイト・留学・旅行・その他、何でもいいと思います。

たとえ他人に自慢できるような成果でなくても、些細なことでも、自分の中で自信を持てる何かを得ることが、とても重要だと思います。そのような経験の積み重ねが、長い社会人生活においても、きっと生きてくるはずですから。 (次回予告:「ディスカッションの流儀」)

以上